

2024. 1. 15

新電力から見た 電力市場の現状と課題認識

株式会社エネット
代表取締役社長 谷口 直行

小売競争環境に対する現状認識

電力小売り競争の進展

2000年に始まった部分自由化も20余年

・(1)需要家アクセス、(2)系統利用、(3)電源調達、それぞれに課題を有していたが、(1)は市場の段階的開放やスマートメーター導入、(2)は計画値同量やインバランスの仕組み、(3)は卸電力取引市場やBL市場、などの制度的措置とともに進展

脱炭素ニーズの高まりと需給構造変化

再エネの普及拡大や火力発電所の休廃止、厳気象の需要量変動等により、かつての系統全体に存在する十分な供給力・調整力の下での安定供給を支える構造から、貴重な**予備力/調整力を系統全体で確保しつつ安定供給を担う仕組み**へと変化が求められてきている。

不透明な燃料価格/電力価格動向

このような過程で、コロナ禍での厳冬によるkWh不足や紛争などの国際情勢の変化を背景に、全世界的な燃料価格の高騰や供給不安が発生し、卸電力市場価格の高騰や一部のプレーヤ間での供給力の抱え込みなど、電力市場が混乱。政府による燃料在庫管理等により、最近では一定の落ち着きを示しているものの、**本質的な不安定要素は内在した状況のまま**である。

小売間の価格競争から安定供給とカーボンニュートラル実現を支えるサービス競争の環境へ

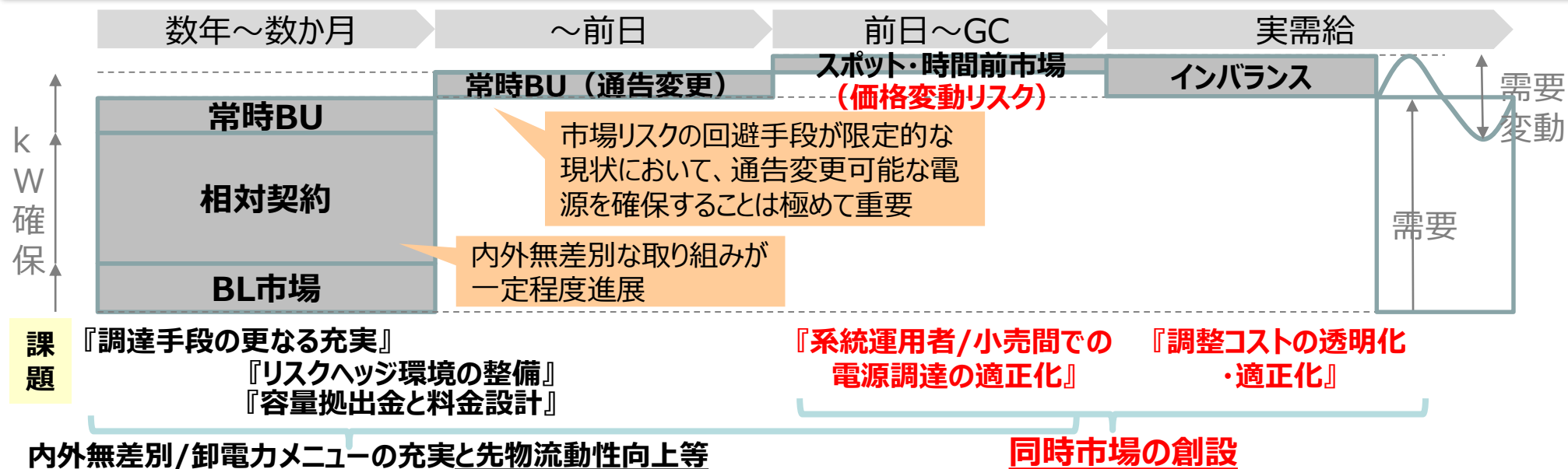
2024年度以降の制度改革に向けた対応状況・課題

1. 容量拠出金負担を踏まえた料金メニュー設計

- すべての発電事業者が容量市場に参加しているわけではなく、また、容量市場に参加していたとしても**容量確保契約金が相対契約等を通じて小売に適切に還元されるか不透明（一部の旧一電含む）**
- 昨今の電力市場の混乱により供給需要家の規模や構造が変化する中で、**過去実績からの需要推定および電源調達状況/拠出金控除反映状況を踏まえて小売料金メニューを設計**

2. 電源調達とリスク対応

- 自社の想定需要に対して、実需給の数年から数か月前までに相対契約等で電源を確保。前日までに発生する需給変動予測に対しては、**通告変更可能な常時BU等を活用するケースも多く、それでもなお発生する需給不一致に対してスポット・時間前市場を活用して同時同量義務を果たしている**
- 需給ミスマッチを解消する前日～GC断面での調達電源**通告変更オプションの有無により、相当がインバランスを含めた市場価格変動リスクに晒されるためリスクヘッジが必要**。ただし、現状は先物市場現物取引の流動性の低さから、DRなどの限定的な手段で対応せざるを得ない状況



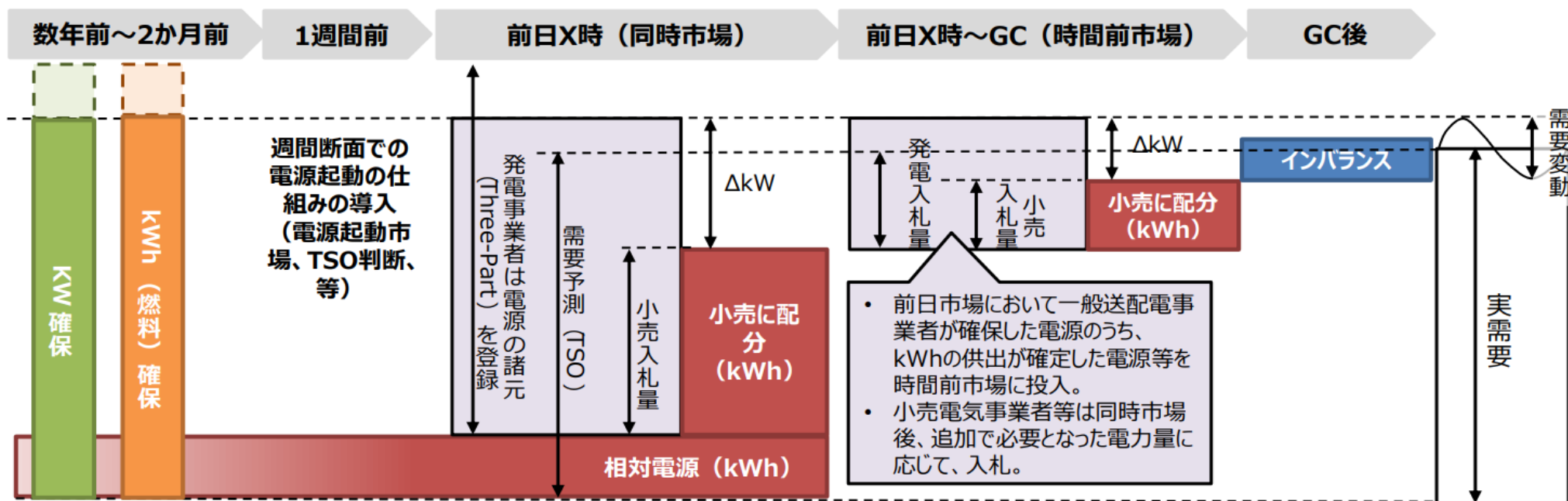
小売電気事業者から見た同時市場への期待と課題

■ 期待

- ✓ 需給近傍での電源流動・調達の効率化(小売/系統の各事業者間でのkWh・ ΔkW の取り合いによる電源売札の枯渇や必要以上の市場価格高騰などの**解消**)
- ✓ メリットオーダー調達の深化による**再エネ活用量の拡大と電源調達・系統運用コストの低減**

■ 課題 (疑問・懸念)

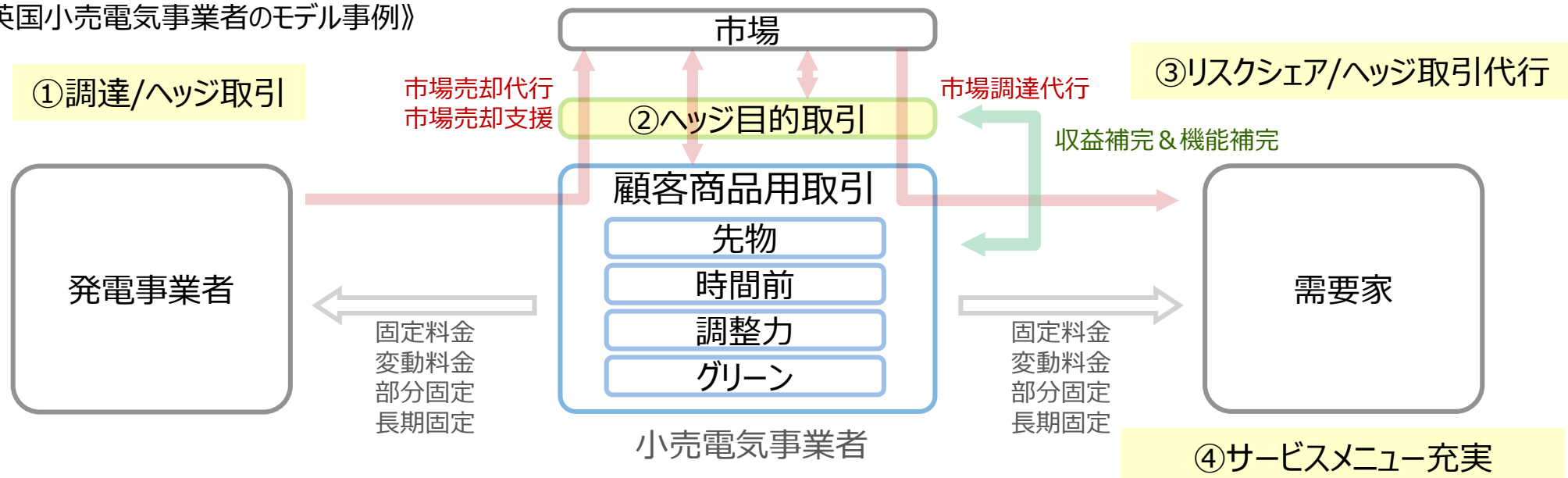
- ✓ 小売事業者における現状BGを通じた同時同量義務/供給力確保義務の位置づけ
- ✓ BGを通じた**経済DR、BGサービス等の既存ビジネスへの影響**
- ✓ プレーヤー間の責任範囲・権限・役割分担の明確化
- ✓ 同時市場運営者の権限・独立性等の確保



小売電気事業者として目指す方向性

- ✓ イギリスでは、先行した市場暴騰/ボラティリティを受け、小売電気事業者が発電事業者や需要家とリスクシェア/転嫁できる料金メニュー等の充実や流動性の高い電力取引・燃料取引を活用したリスクヘッジを充実
- ✓ その上で、多様な料金メニューの提供、再エネ重視需要家へのサービスの充実、デマンドレスポンスの活用に取り組むケースも出てきている
- ✓ 日本の新電力においても、事業を安定化させつつ需要家参加型のサービスを充実していくことが、今後の電力自由化を成功に導くためにも必要
- ✓ 同時市場中でも需要家の動きも適切に反映される設計が望まれる

《英国小売電気事業者のモデル事例》



当社の例

電気の見える化サポート

InfoEnnet®

節電割引プログラム

EnneSmart®

AIによる省エネサポート

Enneteye®

再エネ導入支援メニュー

EnneGreen®

EV導入・運用サポート

EnneEV®